

森林組合によるJ-クレジット創出

～持続可能な森林経営と地域づくりに向けて～

2023年3月8日

根羽村森林組合
大久保裕貴

根羽村・根羽村の森林の概要



人口	862 人
世帯数	417 世帯
総面積	8,997 ha
森林面積	8,423 ha (93%)
人工林面積	6,157 ha (73%)
樹種	スギ (49%)、ヒノキ (41%)、他
所有形態	私有林 (37%) 村有林 (32%) 団体有林 (14%) 集落有林 (10%) 共有林 (5%) その他 (2%)

根羽村森林組合の概要

Our Mission

「根羽村の森を守り、育みつつける」

森を守るプロフェッショナルとして、
この地域で人々が暮らし続けるための
環境的・経済的土台を林業を通じて実現します。

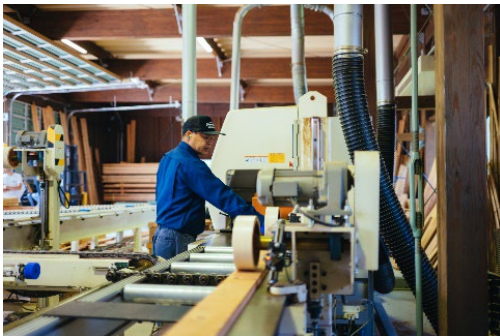
名称	根羽村森林組合
住所	長野県下伊那郡根羽村407-10
組合員数	482 名
従業員数	29 名
事業内容	森林整備、素材生産 建築用材の受注販売 住宅の建設 チップ製造 木のおもちゃ等木製品の受注生産 環境教育
許認可・資格等	SGEC FM(森林管理)認証 SGEC CoC(流通加工)認証 JAS認定工場 信州木材製品認証工場 合法木材 建設業許可 長野県SDGs推進企業

根羽村森林組合の特徴



「村内全戸が森林所有者である根羽村の森林を管理」

- 全戸が少なくとも5.5haの山を所有（村内全域の国土調査済み⇒境界が明確）
- 森林の個人所有が進み、熱心に植林 スギ、ヒノキを中心とした資源が充実
- 村長は組合長を兼務し、全村の総意を汲んで林業立村の取組みを推進



「注文材を工務店に邸別で直接販売」

- 村で廃業する製材工場を買い取り、森林組合に運営を任せる
- 山と工場の密な連携により、工務店や設計士からの様々な注文に対応
- JAS認証を取得（人工乾燥、目視等級）



「上下流連携」

- 愛知県三河湾に流れる「矢作川」の源流地
- 下流域団体が根羽村の森林を所有（土地改良区1914年、愛知県安城市1991年）
- 下流域の市民向けに環境教育イベント等開催（コロナ前で約50回/年）

プロジェクトの概要

組合員所有の私有林を取りまとめ、1つのプロジェクトとして申請

申請費用は誰が負担？

根羽村森林組合

収益は誰のもの？

森林所有者 と 根羽村森林組合

プロジェクト名	長野県 根羽村森林組合による間伐事業を用いた 温室効果ガス吸収プロジェクト ～健全な森林づくりによる地球温暖化防止と持続 可能な山村社会を目指して～
プロジェクト実施者	根羽村森林組合
認証日	2016年12月19日
対象森林所有者	38人
対象面積	56.31 ha
認証を受けたクレジット量	240 t - CO ₂
販売済みクレジット量	231 t - CO ₂ (2023年1月現在)

J-クレジット販売までの流れ

2014年8月

制度説明会へ参加

環境省が全国7ヶ所で開催した、カーボンオフセット及びJ-クレジット制度説明会

2014年10月

山林所有者へ説明

- ①制度 ②特典・制約
- ③覚書



2015年11月

妥当性確認

2015年11月

プロジェクト登録申請

2016年9月

モニタリング調査

合計 6カ所
当組合職員が調査



2016年12月

検証



2016年12月

プロジェクト認証



2017年4月～

本格的に販売開始




取り組みのきっかけは？

山を手放したい組合員が増えたから

なぜ？

- 毎年支払わなければならないお金 固定資産税、森林組合の賦課金など
- 収入を得るまでの長い期間 収入があるのは、木を伐採・搬出したときだけ
- 皆伐した後の植林費用 木を販売した収入だけでは足りない？
- 今は根羽村に住んでいない 管理できない、迷惑をかけるのでは？
- 親から相続した組合員 そもそも山に関心が無い、山を持っていることすら知らなかった人も...



山から定期的な収入を得て、山を持っていて良かったと感じ、
継続的に森林や地域に関わっていて欲しい。

取り組みの効果

森林所有者へ還元

783,420円

取引先企業

12社増加

視察・お問合せ数

30社以上

同業・異業種の
繋がり

意見交換会開催

職員の意識向上

研修会開催

根羽村森林組合の強み ⇒ 環境に配慮されたサステナブルな取組み



森林認証・加工流通認証取得

村内ほぼ全域の森林で、適切な森林管理と持続可能な森林経営が行われていると認証。



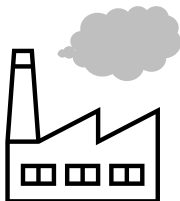
生分解性オイルの使用

全ての現場で生分解性オイルを使用。



環境教育への取組み

累計参加者1万人に対して環境教育を実施。
2019年度、根羽中学校がSDGsまちづくりコンテスト優秀賞受賞



木質バイオマスボイラー導入

工場で発生する木の皮、おが粉で木材を乾燥。



新たな木材活用

木から布を、そしてタオルを作りました。
化学繊維は不使用、
地中に埋めると分解されます。





長野県SDGs推進企業

SDGsの達成に積極的に取り組んでいます。

色々な売り方を持つ

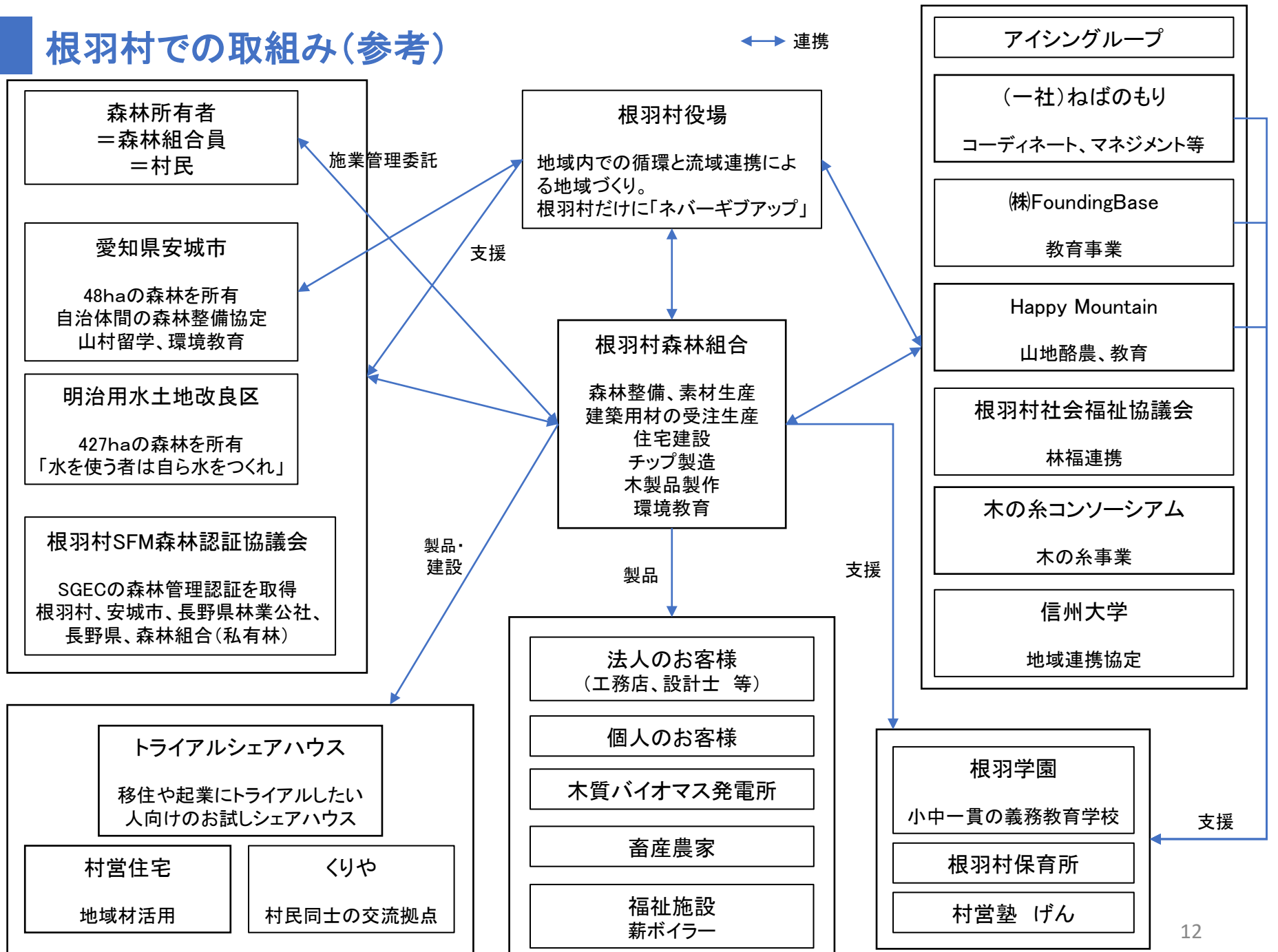
販売方法	販売先	良かった点	負担になる点
直接	地元の企業	<ul style="list-style-type: none"> • 地元へのPR効果 大 	<ul style="list-style-type: none"> • 営業、契約等に人手が必要
直接	取引先	<ul style="list-style-type: none"> • 継続的な取引に繋がった • 本業の売上にも繋がった 	<ul style="list-style-type: none"> • 営業、契約等に人手が必要
仲介業者	全国の企業	<ul style="list-style-type: none"> • 営業する負担がない • 自らでは営業が難しい取引先と契約できた • 様々な情報を知る事ができた 	<ul style="list-style-type: none"> • 手数料が徴収される
制度HP掲載	全国の企業	<ul style="list-style-type: none"> • 掲載コスト無料 • 全国の企業、団体からの問い合わせがあった 	<ul style="list-style-type: none"> • 調査のための問い合わせが多く、販売に至るケースは少なかった

今後の展望

- 村有林でのクレジット発行を計画・支援
- 私有林での2回目のプロジェクト登録を計画
- 下流域を中心とした企業への営業
 - ⇒流域は運命共同体
 - ⇒中長期的なつながりを持ちたい
 - ・プラスアルファの支援を受けられる可能性
 - ・創出者もプラスアルファの価値の提供
- GXリーグ、J4CEへ根羽村森林組合として参画  
 - ⇒カーボンニュートラルに向けて多くの企業が本気で取り組んでいる中で、CO₂の吸収源である森林を最前線で守っている森林組合が、しっかり情報発信をしていく。

根羽村での取組み(参考)

↔ 連携





森林を守る = 地域を守る

2020年度 人口社会増

森林をもとにした事業にチャレンジしている方が多い
森林組合がベースとなる部分を支える

Jクレジットをフックに、オープンな姿勢で多くの人や企業との繋がりをつくり、
森林や地域を残していきたい。



根羽村森林組合
ホームページ



根羽村チャンネル
YouTube